

技術・家庭科（技術分野）の主張

1 教科で育みたい人間像

- 5 技術・家庭科（技術分野）では、「技術を分析し選択することで、よりよい生活を営む人」を育みたいと考えている。私たちの身の回りには、ありとあらゆる技術があふれ、人々の生活は年々便利になっている。一方で、技術は今後も急速に進化し、私たちの生活を目まぐるしく変化させていくだろう。このような社会の中で「よりよい生活を営む人」とは、技術の価値や本質を見極め、自分の意思で取捨選択し、賢く技術と付き合っていける人ではないだろうか。
- 10 人は生きていく上で、日々進化する技術に出会う。しかし、単に優れた技術を自分の生活に取り入れるだけが賢い付き合い方ではない。例えば、最新の技術を取り入れてより便利な生活を求める人もいれば、自分なりのこだわりをもち、あえて最新の技術を選択しない人もいる。その人が望んでいる、その人のライフスタイルに合った技術を取り入れていくことが、よりよい生活を送ることにつながるだろう。さらに、自分の生活だけでなく、周りの環境へも目を向け、社会にとってよりよい選択ができる人も素敵である。
- 15 また、自分に合った技術を取り入れていくためには、技術を適切に分析する力が必要となる。私たちは新しい技術と出会ったとき、その技術を構造、機能、価格などの様々な視点からとらえ、自分の生活を豊かにしてくれるものかどうかを見極めていく。その視点が豊かであれば、自分の生活の実態や課題に応じて技術を取り入れたり、組み合わせたりして選択の幅を広げることができるだろう。
- 20 このように、主体的に技術とかかわり、よりよい生活を創造しようとする人になることを願っている。

2 教科で願う子どもの学び

- 25 私たちのほとんどが、消費者として技術とかかわることになる。しかし、より正確に、そして本質から技術をとらえるためには、製品を構造的に理解する生産者の視点が欠かせない。
- そして、その作り手に求められる役割も、昔と今とでは大きく異なっている。情報技術が発達した現代においては、アイデア一つで他との違いやイノベーションを生み出し、世界を変えることができる時代と変化した。機械が高い精度で製造を担う時代の中で、人間の役割は「つくること」から「考えること」へと変化しているのだ。
- 30 そこで授業では、自らの生活をよりよくするために、また身近な生活の諸問題を解決するために、その方策を構想し、設計、製作、評価するという技術的に問題解決を図るサイクルの中で「思いやこだわりをもって試行錯誤を繰り返しながら、違いを生み出す学び」を展開したい。子どもたちには、接合方法の違いがどれほど強度に影響するかを釘やネジ、接着剤を用いて実験をしたり、電池の数と明るさの関係を体感的に理解するために写真を撮って比較したりするなど、つくりたい製品やそのコンセプトに合う最善の形を追求し、他とは異なる自分なりの製品をつくり上げてほしい。説明書を見ながら指示通りに製作をするのではなく、製作するものに思いやこだわりをもち、最適解を導き出していくために試行錯誤する姿を期待している。
- 35 また、最適解を導き出すために試行錯誤を繰り返す中で、他者とかかわり合い、多様な視点で技術を見つめることが大切になる。特に、製作したものを評価する段階で、一人の消費者に立ち帰り、互いの製品を評価し合うことで、自分にはなかった視点に気づくことができるだろう。ほかの場面でも、単なる個人作業にならないよう、設計の段階で考えたものを見せ合って吟味する活動や、つまづいた点などを共有する機会を充実させたい。
- 40 このように、技術をあらゆる角度や側面から見つめながら試行錯誤する学びを通して、技術を本質からとらえることができる人を育んでいきたい。